日付つき電波時計
取扱説明書

取扱説明書番号　MA-Q005C

このたび弊社アナログクオーツウオッチをお買い上げいただきありがとうございました。
ご使用の前に取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。この取扱説明書はお手もとに保存のうえ必要に応じてご覧ください。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

●お取り扱いについて

⚠警告　防水性能について

＊防水時計の防水性能や機能を必ずご確認いただき、「取扱説明書」に従って正しくご使用ください。(誤った使用は、危険です。)

- 非防水時計　：水滴のかかる場所でのご使用はできません。
- 3気圧（3BAR）防水時計　：洗顔などはできますが、水中でのご使用はできません。
- 5気圧（5BAR）防水時計　：水泳などはできますが、スキンダイビング（素潜り）などにはご使用できません。
- 10/20気圧（10/20BAR）防水時計　：スキンダイビングなどはできますが、スキューバダイビングにはご使用できません。
- 防水性能 …… 時計の文字板及び裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下図をご参照ください。

りゅうずはきちんと押し込んでご使用ください。

仕様	表示		使用例				
	ケース	文字板	水のかかる程度の使用。(洗顔、雨等)	水仕事や一般水泳に使用。	スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	空気ボンベを使用するスキューバダイビングに使用。	水滴がついた状態でのりゅうず操作
非防水	—	—	×	×	×	×	×
3気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST または無表示	○	×	×	×	×
5気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST (5BAR) または無表示	○	○	×	×	×
10気圧防水 20気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST (10/20BAR) または無表示	○	○	○	×	×

ご注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。りゅうずがねじロック式タイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- 水分のついたままりゅうずの操作をしないでください。
- 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。水の中で使うことが多い日常生活防水以上の機能を要する時計の場合は脱色、接着はがれなどの不具合を起すことがありますので、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上、ご使用ください。
- 防水時計の場合、海水に浸した時や汗をかいた後は、真水でよく洗い、よく拭き取ってください。(蛇口の水を直接かけないで、汲んだ水で洗ってください。)
- 時計の内部にも多少の湿気がありますので、外気の温度が時計内部より低いときは、ガラス面がくもる場合があります。くもりが長時間消えない時は、お買い上げ店でご相談ください。
- 一定の防水性能を保つため定期的に（2～3年を目安に）パッキンの交換をしてください。(お買い上げ店でご相談ください。)

⚠注意　携帯時の注意

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど充分にご注意ください。また、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、充分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、火傷の恐れがあるため絶対に使用しないでください。

⚠注意　金属バンドのお取り扱いについて

- バンド中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

⚠注意　電池のお取り扱いについて

- 幼児の手が届かない所に置いてください。
- 万一電池を飲み込んだ場合には直ちに医師と相談して治療を受けてください。

⚠注意　電池交換について

- 電池寿命切れの電池をそのままにしておきますと、漏液等により故障の原因となることがあります。早めに電池交換してください。電池交換の際は必ず指定電池をご使用ください。

⚠注意　かぶれについて

- ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。また、皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起すことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。(時々はりゅうず通常位置のままでりゅうずを空回りさせてゴミ、汚れを落としてください。)
- かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じることがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してすぐ医師に相談してください。

（かぶれの原因）金属、皮革アレルギー、時計本体およびバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗などです。

〈時計のお手入れ方法〉
- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は柔らかい布で拭き取ってください。
- 皮革バンドは乾いた布で、汚れを取ってください。

ご注意

温度について
- −10℃～＋60℃から外れた温度下では機能低下や、停止することがあります。
- 直射日光にさらしたり、炎天下の車内など高温になる所に長時間置かないでください。故障の原因になったり、電池寿命が短くなります。
- 屋外など、低温になる所に長時間置かないでください。故障の原因になったり電池寿命が短くなります。

磁気について
- 磁石には近づけないでください。磁気健康機具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの止め具、携帯電話のイヤホン部など、磁気に近づけると正しい時刻を表示しません。この場合は磁気から離して時刻修正をし直してください。

静電気について
- クオーツウオッチに使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。テレビ画面などの強い静電気を受けると表示がずれることがありますのでご注意ください。

ショックについて
- 床面に落とすなどの激しいショックはあたえないでください。

化学薬品・ガス・水銀について
- 化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

保管について
- 長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管ください。

お買上げいただいた時計についている電池について
- この電池は、工場で組立時に機能、性能を確認する為のモニター用電池です。お買上後、所定の年数に満たないうちに寿命が切れてしまう事がありますのでご了承ください。

※電池は、保証外です。保証期間内であっても交換は有料となります。

電波時計について

●電波時計とは

この時計は、日本国内の2局の電波送信所（福島局と九州局）から送信される標準電波（時刻情報）を自動選局し、時刻やカレンダーを自動修正する電波時計です。
標準電波は、日本の時刻のもとになるもので、セシウム原子時計により作られ電波送信所より送信されております。電波時計は通常クオーツにより駆動しておりますが、約10万年に1秒という超高精度の時刻情報を毎日受信し時計の表示時刻を修正することで、いつでも正しい時刻を得ることができます。

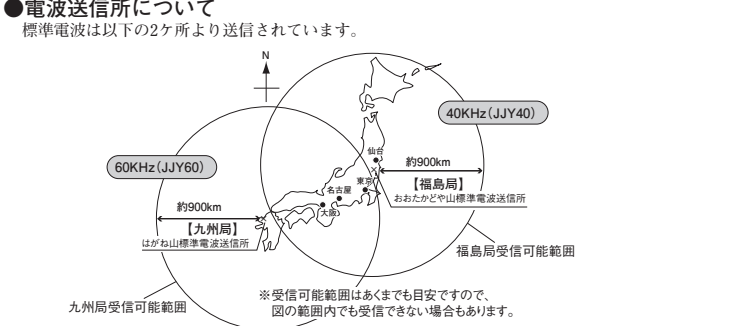
●標準電波について

標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（ＮＩＣＴ）が運用しております。この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、補修作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。詳しい情報は日本標準時グループのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp/

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

●電波送信所について

標準電波は以下の2ケ所より送信されています。

●受信範囲の目安

この時計は福島局および九州局の両局の電波を受信可能です。受信可能範囲としては両局の電波送信所からのそれぞれ距離が900kmが目安です。ただ、これはあくまでも目安であり、その他の要因（周辺の地形、構造物、気象条件など）で900km以内でも受信できない場合がありますのでご了承ください。また、距離が遠くになるにつれて電波は弱くなります。

製品仕様　FR10

1. 特　　徴：日本長波標準電波（JJY 40およびJJY 60）を2局自動切替受信し、時刻・経過年数（うるう年識別）※1・月・日を自動修正できるアナログ電波時計
2. 基本機能：時刻表示／時･分･秒
   日付表示／日付板による日付表示機能（2100年2月28日まで完全自動修正）
   年月表示／秒針による経過年数（うるう年識別）※1・月表示機能

※1：裏面の 操作方法「3.月とうるう年からの経過年数表示」を参照してください。

3. 付加機能：受信結果確認機能
   電波受信による時刻自動修正機能（定時受信・強制受信）
   受信局自動選択機能（JJY 40およびJJY 60）
   2秒運針による電池切れ予告機能
4. 時間精度：［電波受信ができない場合］
   平均月差±20秒以内（常温携帯+5℃～+35℃）
5. 受信機能：定時受信・強制受信
6. 作動温度範囲：−10℃～+60℃
7. 受信電波：日本長波標準電波
   福島局（周波数40KHz： JJY 40）
   九州局（周波数60KHz： JJY 60）
8. 定時受信時刻：1日最大2回
   2：00（AM）／4：00（AM）
9. 受信待受時間：最短約2分／最長約13分（定時・強制受信共通）
10. 使用電池：CR2016（リチウム電池　1個）
11. 電池寿命：約10年（定時受信を1日1回2分／強制受信を1週間に1回2分使用の場合）
    ※お客様の電波受信状態によっては、所定の電池寿命に満たない場合があります。
12. 電池切れ予告機能：2秒運針～電池切れ　　約2週間

バンド調整方法

⚠注意

●バンド調整について
- バンド中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- バンド調整後不要になったピン、コマ等は危険ですので、そのまま放置しないで安全な場所に保管してください。
- 作業を行うときは、けがや事故防止のため十分注意してください。(万一ケガ等された場合、メーカーとして責任は負いかねます)

スライド式フリーアジャストバンド （中留ダボの形状が2種類あります。）

三ツ折バックル方式（ダブルカバー付）

板バネ方式

複数ジュエリーバックル方式 バンドコマ（1コマずつ計2コマ）を着脱する事により長さの調整が可能です。

三ツ折フリーアジャストバンド

割ピン方式

割ピン方式 （ピン抜き台のある場合）

保証とアフターサービスについて

①修理のご依頼は原則としてお買い上げ店に保証書添付の上ご持参ください。
②当社は時計の機能を維持するための修理用部品を通常7年間を基準に保有しております。ただし、ガラス、側、バンド、文字板、針などの外装部品につきましては、外観の異なる代替部品を使用させていただく事がありますので、ご了承ください。
③保証期間を過ぎたものの修理については、有償にて申し受けます。また修理可能期間につきましては、ご使用の状態でいちじるしく異なりますが、部品保有法定期間に準じます。
④ご贈答、ご転居によりお買い上げ店での保証が受けられない場合は、下記シチズン時計（株）Q&Q お客様相談室へ保証書を添えてご郵送またはご持参ください。その場合の諸掛りはお客様のご負担となります。

※ご郵送の場合は紛失などを防ぐため簡易書留をご利用ください。

サービス窓口：Q&Q お客様相談室

TEL.	0120-977-319
受付時間	10～12時／13～16時 月～金（祝日、年末年始を除く）
メールアドレス	qqsupport@citizen.co.jp
URL	http://qq-watch.jp

製造発売元　シチズン時計株式会社 Q&Q事業部

受信について

この時計は、操作なしに自動的に受信を開始する「定時受信」とボタンの操作によって受信する「強制受信」とがあります。受信時間はおおよそ2分～13分です。まったく電波を感知しない場合には、早ければ数十秒で通常運針に戻ります。

・定時受信
　毎日午前2時に受信を行い、受信ができなかった場合は再度午前4時に自動的に受信を行います。
　〈定時受信開始時間〉
　2：00（AM）　4：00（AM）

・強制受信
　Bボタン（4時位置）を長押しすることで実行されます。
　詳細は「2.強制受信」を参照ください。

※強制受信は、強制受信操作を行ったときに標準電波を受信します。
※電波を受信する際のエネルギー消費は、通常運針時に比べ大きくなりますので、明け方のノイズの少ないときに効率的に受信し、修正する仕組みになっています。

受信環境について

受信の場合は、以下のことに注意して行ってください。

●電波遮蔽物
付近に金属等の遮蔽物があると、電波を反射・吸収させるため、受信がしにくくなります。
　鉄筋コンクリート建物の中
　高層ビルや山などの谷間、地下
　車、電車、飛行機の中

●ノイズ発生物
付近に強いノイズを発生させているものがある場合、電波を受信するのが難しくなります。
　高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）、変電所の近く
　通信中の携帯電話の近く
　TV、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やＯＡ機器の近く

●アンテナの向き
この時計には、ケース内部の9時位置に電波受信用のアンテナが組み込まれています。上手に受信するためにはこのアンテナを電波送信所の方向に向けて、時計を窓際に置いてください。

受信時の時計の向き
バンドは、なるべくアンテナの下にこないように伸ばします。
電波送信所
アンテナ

●時計の状態
時計は腕から外し、受信中はなるべく時計を動かさないようにしてください。
動かしながら行うと、安定した受信ができなくなります。

●温度環境
極端に高温や低温の場所では受信がしにくくなります。

●その他の影響要素
気象条件・雷・地形・季節によっても受信がしにくくなります。

各部の名称

操作方法

1.受信結果の確認

最新の受信結果（24時間以内）を確認することができます。Bボタンを1回押します。

Bボタン

受信が成功している場合
秒針が1時位置（ＯＫ）まで移動し、10秒間停止します。
その後、元の時刻表示に戻ります。

受信が失敗している場合
秒針が11時位置（NGもしくはNO）まで移動し、10秒間停止します。その後、元の時刻表示に戻ります。

※もう1回、Bボタンを押すと元の時刻表示に戻ります。
※また、下記の場合にもNGもしくはNO表示となります。
　・定時受信または強制受信で受信失敗している場合
　・手動での時刻合わせを行った場合
　・基準位置の設定を行った場合
　・月とうるう年からの経過年数表示を行った場合
　・りゅうず引き操作を行った場合

2.強制受信

①強制受信
（Bボタンを2秒以上長押しをします。）
秒針が早送りされ、前回受信結果（ＯＫまたはNGもしくはNO）で一度停止してからさらにBボタンを押し続けると、針がＲＸ位置まで移動し停止します。これで受信開始となります。

②受信中
受信をしている間にも秒針が回転して時針・分針を現在時刻に合わせます。受信は約2分～13分かかります。
※受信中にBボタンを2秒程度、長押しすると受信がキャンセルされます。

③受信結果表示［ＯＫ］
強制受信の結果を表示します。

ＲＸからＯＫへ移動し、10秒間停止します。

④時刻表示への復帰
正しい時刻から１秒運針をはじめます。

③受信結果表示［NGもしくはNO］
強制受信の結果を表示します。

ＲＸからNGもしくはNOへ移動し、10秒間停止します。

④時刻表示への復帰
元の時刻から１秒運針をはじめます。

※どうしても受信できない場合は、お手数ですが、「5.手動での時刻合わせ」を行ってください。

3.月とうるう年からの経過年数表示

①月とうるう年からの経過年数表示
（りゅうずを1段引きにします。）
秒針が早送りされ、現在のうるう年からの経過年数と月が表示されます。

②経過年数について
・時刻ちょうどを示す場合：うるう年
・時刻から1分後を示す場合：うるう年の翌年
・時刻から2分後を示す場合：うるう年の2年後
・時刻から3分後を示す場合：うるう年の3年後

③うるう年の早見表

年	経過年数	年	経過年数
2004	うるう年	2008	うるう年
2005	１年目	2009	１年目
2006	２年目	2010	２年目
2007	３年目	2011	３年目

※2100年2月28日までは月末を自動的に修正します。

4.基準位置の確認、合わせ方（基準位置は31日と1日の間 00時00分00秒）

基準位置とは、時計内部のICが記憶している31日と1日の間 00時00分00秒のときの針の位置です。通常、この基準位置では31日と1日の間 00時00分00秒を表示します。ただし、電池交換や時計に強い衝撃を加えられたときや、静電気の影響等でICの記憶している位置と、実際の針の位置がずれる事があります。基準位置がずれていると受信しても正しい時刻を表示しませんので合わせ直してください。

※この操作は電波を受信しても時刻が正しくない場合にのみ行ってください。
※電池交換後は必ず基準位置合わせを行ってください。
※操作中、針が動いているときはりゅうず操作・ボタン操作は行わないでください。

①基準位置表示
（Aボタンを5秒以上長押しをします。）
時針がデモンストレーション運動をしますが、そのまま長押しを続けると、秒針と分針、時針と日付の順番で針が基準位置に戻ります。
秒針が移動したら手を離してください。
※何の操作も行わないで、30秒経つと、元の時刻表示に戻ります。

Aボタン

②基準位置確認
A.基準位置（針の停止位置）が31日と1日の間 00時00分00秒だった場合
→針の基準位置は正しいです。
　1）Aボタンを1回押してください。針は元の時刻表示に戻ります。
　2）時刻が合っていない場合は「2.強制受信」を行ってください。

B.基準位置（針の停止位置）が31日と1日の間 00時00分00以外だった場合
→針の基準位置がずれてます。再設定が必要です。

1）基準位置の設定
「①基準位置表示」の操作の後、30秒以内にりゅうずを2段引きの状態にしてください。
※Aボタンを押してから30秒以内にりゅうず操作を行わないと、元の時刻表示に戻ります。

2）秒針・分針の修正
（りゅうずを2段引きにします。）
りゅうずを回して秒針と分針を00分00秒に合わせます。
※ 秒針と分針は連動しております。

3）時針・日付の修正
（りゅうずを1段引きにします。）
りゅうずを回して時針と日付を31日と1日の間 00時に合わせます。
※ 時針と日付は連動しております。
※ 日付の基準位置は31日と1日の間になります。

4）基準位置の決定
（りゅうずを通常位置に戻します。）
りゅうずを戻した30秒後に元の時間に戻り、秒針が１秒運針をはじめます。
または、Aボタンを押すと元の時刻表示に戻ります。

5）時刻修正
「2.強制受信」を行って時刻修正してください。

※針を早送りまたは早戻しするときは、りゅうずを連続的に回す（２回クリック）と、連続運針で修正できます。連続運針を止める場合はりゅうずを回してください。

5.手動での時刻合わせ

電波受信ができない場合は以下の方法で、時刻合わせください。

①時針と日付の修正
（Aボタンを1回押す）
時針がデモンストレーション運動をします。
りゅうずを回して時針と日付を修正します。
時針と日付は連動しております。
※10秒以内に、この操作を行ってください。

②月とうるう年からの経過年数の修正
（りゅうずを1段引きにします）
月とうるう年からの経過年数を秒針が表示します。
りゅうずを回して月とうるう年からの経過年数を修正します。
※「3.月とうるう年からの経過年数表示」を参照してください。

③分針の修正
（りゅうずを2段引きにします）
秒針が00秒に戻ります。
りゅうずを回して秒針と分針を修正します。
秒針と分針は連動しております。
時報に合わせてりゅうずを通常位置に戻します。
戻したと同時に秒針がスタートします。
※分針の修正時には秒針は修正できません。秒針が基準位置にない場合は、「4.基準位置の確認、合わせ方」を行ってください。

※手動での時刻合わせを行うと受信結果はNGもしくはNOとなります。
※すべての修正が終わったらりゅうずを通常位置まで戻してください。修正された時刻から、１秒運針をはじめます。
※針を早送りまたは早戻しするときは、りゅうずを連続的に回す（２回クリック）と、連続運針で修正できます。連続運針を止める場合はりゅうずを回してください。

こんなときは

●正確な時刻を表示しない。
①受信はできてますか？
　Bボタンを押して受信結果をご確認ください。
　受信NGもしくはNOの場合は時刻修正はされてません。この時計は標準電波が受信できないときはクォーツの精度（月差±20秒）で動きます。受信に適する環境で受信を行ってください。それでも受信できない場合は、お手数ですが、「5.手動での時刻合わせ」を参照の上、時刻を修正してください。
②針の基準位置はあってますか？
　「4.基準位置の確認、合わせ方」を参照の上、針の基準位置をご確認ください。針の基準位置が正しくなかった場合は針の基準位置を修正してください。

●針がとまったまま動かない。
①りゅうずが引き出されたままになってませんか？
　りゅうずを通常位置に戻してください。しばらくすると針は動き出します。
②秒針がRX位置に停止していませんか？
　受信中の可能性があります。受信がおわるまで約13分待って再度、針の状態をご確認ください。
③電池が切れていませんか？
　電池が切れている可能性があります。電池交換を行ってください。電池交換後は必ず「4.基準位置の確認、合わせ方」を参照の上、針の基準位置を修正してください。

●受信が成功しない。
①受信環境が良くない所で受信していませんか？
　「受信環境について」を参照の上、受信環境を改善してください。
②針の基準位置が合っていますか？
　「4.基準位置の確認、合わせ方」を参照の上、針の基準位置を修正してください。

●受信確認の際、針がずれている。
①針の基準位置は合っていますか？
　「4.基準位置の確認、合わせ方」を参照の上、針の基準位置を修正してください。

●秒針が2秒運針をしている。
①電池切れの警告をしていませんか？
　時計が止まる前に電池を交換してください。

困ったときは

次のような場合は下記操作を行って適正な状態に時計を修正してください。
・操作をしていて時計の現在状態が分からなくなったとき
・受信結果の確認で秒針がOK・NGもしくはNO以外を示すとき
・電池交換を行ったとき
電波を受信しても時刻が正しくない場合にのみ下記操作を行ってください。

①りゅうずを2段引きにします。
※秒針が一定位置まで動いて停止します。

②AボタンとBボタンを同時に約２秒間押します。
※ボタンを離すと秒針・時針が動きます。

③りゅうずを回して分針と秒針を00分00秒にします。

④りゅうずを1段引きにした後、りゅうずを回して、日付と時針を31日と1日の間 00時にします。

⑤りゅうずを通常位置に戻します。

⑥Bボタンを2秒以上、長押しして強制受信をします。

受信NGもしくはNO　電波受信ができませんでした。「受信環境について」をご参照の上、電波受信状態を良くしてから再度「2.強制受信」を行ってください。どうしても受信できない場合は、「5.手動での時刻合わせ」を行ってください。

受信OK　時刻が修正され、正しく表示されております。ご使用を開始してください。